

談 叢

蒙 疆 の 特 殊 性

副 會 員 山 崎 浩^{*}

日本の南方政策の強化に伴ひ蒙疆の重要性が忘れ勝になり、蒙疆の政治的、經濟的獨立の意義なきが如き、又は獨立の不可能なるが如き言説を屢々聽く矢先、支那事變直後、皇軍將兵に従ひ入蒙されし政府先輩の指導を受けて蒙疆に住み、先輩農友と共に蒙疆の明日を語り、蒙疆を愛して一年半、靜かに過去を迷思するとき今日程蒙疆の本質的使命と存在意義が昂揚され強調さるべき秋はないと思ふ。

茲に蒙疆の再認識を要する意味で政治的、經濟的の特殊性を語りたい。

第一に蒙疆の政治的の特殊性の問題である。

第三次近衛聲明は次の如くその根據を述べてゐる。

1 東亞の天地には「コミンテルン」勢力の存在を許すべからざが故に支那に現存する實情に鑑み内蒙地方を特殊防共地域とすべきこと。

2 日支の提携と合作とをして實効あらしめんことを期し日支間の歴史的經濟的關係に鑑み内蒙地方においてはその資源の開發利用上、日本に對し積極的便宜を與ふること。

と述べて蒙疆の特殊性を明かにしてゐる。

更に新中央政府樹立の前提として開催された昭和15年1月下旬の青島會談において。

蒙疆が國防、經濟上、日滿支三國の強度結合地たる特殊性に鑑み現状に基き廣汎なる自治權を認めた高度の防共自治區域とする。

事實が確約され同年3月20日、南京において開催せられた中央政治會議に於て承認せられた。尙同年10月1日の日本政府と南京中央政府との日支基本條約において再確認された所である。

この高度自治性の基礎は蒙疆の特殊防共地帯としての特殊性にあることは忽論である、然らば防共地帯としての特殊性の實態は何かと云ふに、北には外蒙人民共和國を通じ、ソ聯に境し、西南には甚大なる共產地帯を控へ滿州國、華北地帯に對しする防共の遮斷地區として蒙疆が地域的に大陸の赤化防衛の最前線として新東亞建設の一翼をなし共榮圈確立に邁進すべき特殊なる地位と使命におかれてゐる。

この間にあつて民族的には蒙古民族及漢民族を以て構成され、しかも外蒙の民族と蒙疆の民族とは同一蒙古民族であるが、その現況は如何と謂ふに、外蒙の赤化工作と蒙疆の防共工作の政治的相反する性格が明かにされてゐる。それ故にかゝる民族構成を有する蒙疆は南京政府地域と同一に論ずることは不可能であつて、そこに中間地帯として特殊地域を構成し、特殊の政治を行はなければならぬ。

蒙疆が事變直後、直ちに多數の日本人を進出せしめて政治を推進せめた所以は又茲にある。

蒙疆の地域南境界は萬里の長城を以て境界としてゐる現在、京包線を中心として南北は漢民族が居住してゐる

往昔は蒙古民族の居住地であつたが清朝以來の漢民族の北進により蒙古民族は北部へ退却を餘蘊なくされた、蒙疆は現實的には純蒙古民族地帯に還元すべきであるが萬里の長城以北は2,000餘年以前の秦の始皇帝の施政以來地域的に判然と區別され經濟的にも察南晋北が蒙疆政權下に歸屬すべき基由は茲にあり蒙疆の特殊性格が存在するのである

蒙疆の政治的性格は現在の包含されてゐる地域を以て論ずべきではない、寧夏、甘肅省の漢蒙兩民族の交錯地

^{*} 蒙古聯合自治政府 蒙南廳土木科長

帯は西、南へと延びて防共防壁が構成することによつて漢蒙兩民族の交錯地帯を把握し防共前衛として思想的意義が見出される。現在の蒙疆人口は560餘萬といはれ、その中に蒙古人は僅か30餘萬内外に過ぎない、住民の大部分は漢人である。今日世界に於て獨立の國家として民族的意義をなし得るためには一定の人口(少くとも5,000萬人)資源、産業の構成、文化等一定の資格が必要とせられてゐる。弱小民族の生きる途は自己の生存と發展とをはかりつゝ、同時に他の民族の發展を認め自他を調和せしめて行くことである。

蒙疆政權の樞要なる人事は蒙古人にあよつて占められてゐる。蒙古人の占むる經濟は問題ではないが、この人事によつて蒙古人を厚生し、その把握によつて他地域にある蒙古人を把握し、漢蒙兩民族の抗爭を解消し永年の漢民族の苛歎誅求より蒙古人を救出すことは東亞共榮圏の確立上、絶對不可避の問題と吾人は信じてゐる。

外蒙の民族と蒙疆の蒙古民族とは同一民族であるが1931年外蒙が獨立してから思想的に政治的に全く分離してゐる。相互に住民の誘導如何により日ソの問題にまで發展する可能性がある。従て蒙古人を完全に把握することによつて滿洲國が國防の第一戰ならば蒙疆は更に重要な國防線であつて特殊防共地帯としての使命が完全に果されるものと信ずる。

第二には經濟的特殊性の問題である。蒙疆は前述の如く政治的には獨立すべき理由はあるが經濟的には獨立をなし得ないとす説がある。蒙疆の經濟は周知の如く農業、牧畜は主要産業であると同時に輸出産業で原料の儘北支或は第三國に輸出し、主食品以外の生活必需品を購

入してゐるのである。故に工業が未發達であることが蒙疆經濟の構造的特徴をなしてゐる。

蒙疆は主食品においては如何なる凶作と雖も自活して行けるが必需品輸入に於て常に輸出の範圍内に於て購入し賣る物品は安く買ふ物は高い經濟的な制約を受けてゐたのである。

蒙疆政權の成立以來、内部的には政權の基礎的要素である治安の確立、外部的には日本の生産擴充に對する原料供給の使命なる産業開發の促進が要請せられた。従て一昨年までは貿易の逆調、水害、農作物の不作に基因し財政的に壓迫され經濟的獨立性の不可能なるを論ぜられたのである。然し昨年より財政的に完全に調整出来る見透がつき自給自足が解決出来ることとなつたのである。

蒙疆は糧穀、阿片、獸毛、皮、鐵、石炭、を生産し北支、日滿へ輸出して生活必需品を輸入し國際收支の適合が出来、經濟的に獨立し得るのである。

蒙疆の産業開發は東亞共榮圏他の地域へ協力することによつて財政支出に苦しみ、國際收支の逆調、低物價政策の強行等、極めて至難な途を歩いて來てゐる。

要するに政治的獨立性の可能は經濟的獨立性の基礎に立つべきである。

以上、蒙疆の本質的なものを思考するとき吾々に要求せられるものは不動の信念と熱心に立脚する實踐である建設は苦しみと悩みと困苦の伴ふことなしに遂行され得ない。建設者として、その使命と意義を正しく把握し大陸の民を愛し、大陸に奉公する誇らかなる使命に生き眞摯な健闘を續けなければならないことを強調するものである。

x x x x x x x x x x x

x x x x x x x x x x x